

消費増税に思惑交錯

施設側 財源確保に必要 利用者 これ以上負担は



施設内の喫茶店に集う利用者たち。福祉の現場では消費税をめぐりさまざまな意見が聞かれる=福井市の山翠苑で

社会福祉の現場切実

衆院選は終盤に入り、各党、各候補とも有権者へのアピールに熱が入っている。「消費税増税延期の判断について国民に信を問う」のが衆院解散の大義名分だったはずだが、この問題に対する論戦が盛り上がっているとは言い難い。消費税増税の理由として社会保障の安定と充実が挙げられているが、県内の福祉の現場を「ぞうてみて」「財源確保のため消費税増税」と求める施設側と、「増税すれば、施設にいらなくなる」と危機感を募らせる利用者側の思いが交錯している。

(中場)

福井市堅葉町にある指定
介護老人福祉施設「山翠苑」の田中淳施設長（四〇）は
「国の財源がなければ福祉
制度の維持は困難」と訴え、
増税の必要性を強調する。
「社会福祉法人は、生活困
窮者を守る社会のセーフテ
ィーネットとしての使命を

負っている」と話し、消費税率の10%への引き上げが一年半先送りされた分の財源確保に「不安を覚える」と明かす。

施設運営だけでいえば、食材や備品の購入などで消費税増税が重荷になる面もあるとしながらも、「福祉全体のことを考えると増税し、充実した制度にする」とが重要」と長い目で福祉制度の維持を考えていかなければならぬと説明。「公立高校で介護科を増やし、

子どもたちの意識を福祉に向けさせることも必要」とも指摘し、介護に携わる人材を育成して、福祉サービスの一層の充実に向けた国の方針の対応の必要性を訴えた。一方、施設利用者側にとっては負担増を強いられる消費税増税への反発は強い。福井市内のケアハウス「アーバン・ヴィラ・ロークス」に入居する女性(65)は再増税について「先送りされたのは良かった。少しでも遅いほうがいい」と胸をなで下ろす。8%以上がつた際は「遊びに出掛けることを控えたが、必要なものは買い物もできない」と振り返り、「政治家の皆さんに庶民の気持ちとは分からぬ」と嘆く。

同じケアハウスに入居する男性(72)は「10%になつたら施設にいつまでいられるか不安、引き上げがちよつとでも遊びて良かつた」と話し、「楽しみにしている居酒屋やカラオケに行くことも減らさなければならぬ」と寂しげな表情を浮かべた。政治については「少子高齢化も進む中、介護福祉を最優先に考えてほしい」と願つ。

交錯する思いに、政治はどう答えるのか。施設側も利用者側も、候補者の言葉から消費税への主張を読み取ろうとしている。